

平成二十九年七月投句

【野河内】

ジルバ弾け絡むスカート夏館

竹落葉そうめん流しの小屋朽ちて

玉虫の身重のごとく飛び行けり

勝利

父に手を引かれ谷川裸の子

真理子

蟻猛る近くに蹴むかでをり

人影もなき島の山夏の霧

川音に聞き取れぬ声滝近し

溪谷の岩の窪みに水馬

気がつけば金魚に話かけてをり

節子

崩れゆく峰雲に雨気にかかり

由紀子

溪谷の奥へ誘ふか秋の蝶

尾を振つてくるりとそつぽむく金魚

夏霧に立ちて無言や普賢岳

溪谷は八重に折れつつ滝口へ

光子

風涼し身内の息を入れ替へて